

業界から一言

製造業

食料品製造／洋菓子関連は、新製品の投入、新規販売チャネルの開拓等で前年比増のところもあるが、アーモンド類、砂糖などの原材料、包装資材の高騰が収益を圧迫。水産物加工は、おせち料理の前倒し需要があり、微増のところがあるが、全体としては前年比横ばいであり、歳暮商戦の先行きも不透明。麺類製造は、気温が平年より高いため、主力製品のほうとうの売れ行きが良くない。加えて、原油高に伴う燃料などの製造コストの高騰が収益を圧迫。ワインは、天候に恵まれ、新酒の仕上がりがよく、微増傾向であるが、確かな上昇気配の判断はできない。

繊維・同製品／ネクタイは、クルピズなどの影響でラフなスタイルが一般的となり、秋冬物も厳しい予測。既成服製造は、依然として、先行きが不透明。

木材製品／木材の販売量は、流通・製造部門とも増加しているが、売上高は不変。製造部門の仕入量は増加。杉・檜の素材価格が需要期への期待と品薄感から、販売価格が若干高騰。家具製造は、中央と地方大企業と中小企業、黒字企業と赤字企業の格差が拡大し、二極化がますます進行。

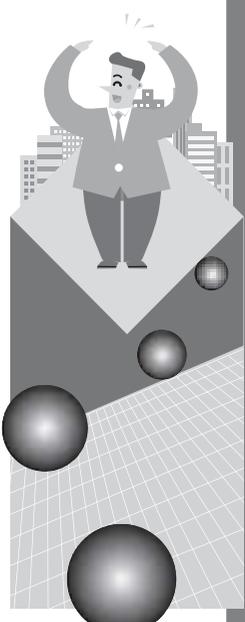
窯業土石製品／生コンクリートの出荷量は、民間マンション物件に加え、公共物件が増加し、売

上高が大幅増であり、今後の公共土木物件の受注に期待。砂利販売は、河川砂利(原石)の価格が高く、収益を圧迫。採取価格の引き上げ、骨材販売価格の値上げが実現しない特定砂利採取事業の存続が困難。

非製造業

小売業／水産物は、包装資材等の高騰により、販売価格の値上げの必要があるため、消費への影響が懸念される。食肉小売は、米国产牛の輸入再開のめどが立ち、仕入を控えている状況。国産ブランド牛は、品薄のために価格が高値安定。家電は、エアコンが依然好調で、白物家電も順調に推移。また、映像関連製品の販売台数は大幅増であるが、価格が下落しており収益の確保が困難。ガソリンスタンドは、元売り各社が若干値上げしたが、小売価格は据え置いた。中国等の旺盛な需要が続いており、小売価格は現状で推移すると予測。自動車販売は、収益性の高い新車販売が好調で売上も上昇気配。

サービス業／ホテル・旅館は、秋の観光シーズンに入り、観光会社等とのタイアップにより売上を伸ばしているところがあるが、全体としては横ばい。自動車整備は、小型車の車検が多く、整備料金の低下に伴い、売上高が減少。



山梨県中小企業団体中央会

情報連絡員報告
(平成17年10月分)

景況情報

調査対象の50業界のDI値は、製造業は前月大幅に回復した反動からか、「業界の景況」・「売上高」・「収益状況」とも悪化した。非製造業は、前月に引き続き、「売上高」・「収益状況」とも回復、「業界の景況」も回復した。全体としては、「業界の景況」・「売上高」がやや回復、「収益状況」が横ばいであった。

しかし、全産業にわたり、景気回復への確かな手応えが感じられずに、先行き不透明と回答する声が多い。

建設業／建設業界は、官公庁の設計単価が切り下げられる傾向にあり、受注単価が下がり、設計単価が下がるとい

う悪循環に陥っており、業況がさらに悪化。マンション、ビジネスホテルなどの建設工事が多く、型枠工事、鉄筋工事などの職人が不足し、職人確保のために人件費が増加しているが、受注単価がアップしないため、経営が厳しい。鉄構工事は、物件数が減少し、規模も小型化している。また、昨年の鋼材価格値上げの影響で鉄骨コンクリート増が減少し、鉄筋コンクリート増が増加。管工事は、請負工事の減少が続いており、売上高が減少。材料費が原油価格の影響により高騰しており、収益の確保が困難。

運輸業／タクシー業界は、自家車利用の観光客が多く、タクシー利用が少ないため、好転の兆しが見えない。バス業界は、秋の観光シーズンの予約が若干少ない。加えて燃料コストが収益を圧迫。中小のトラック業者は燃料費が一年半の間に約二〇円値上がりし、燃料コスト増になったが、運賃への転嫁ができないため、経営維持が限界まできている。